

令和2年度 東京都立町田高等学校全日制課程 学校経営報告

教育活動の取組内容	取組の結果
<p>【学校運営・学校経営】</p> <p>① 学校経営計画の実現に向けて、教職員一人一人が、執務ガイドラインに基づき組織的・計画的に学校運営に参画する。教職員の力を結集するため、学校経営計画の中から自分が果たすべき役割・達成する手立てについて自己申告書に具体的に記載し、組織的・計画的に職務を遂行する。</p> <p>② P D C A サイクルを実施し、校内組織の業務改善・効率化を図る。 [前後期年2回、学校運営連絡協議会で報告]</p> <p>③ 中学校及び塾訪問においては、本校の教育内容の周知に努めるとともに、中学生や保護者のニーズ及び本校に対する評価について情報収集を行い、募集対策や教育活動に反映させる。 [一人3校以上]</p> <p>④ 業務の効率化・平滑化を図り、全教職員の在校等時間及び持ち帰り業務の削減を目指す。達成に向けて、自己申告書の自由意見欄に改善策の提言を行う。 [年間平均 360 時間以下、昨年度 520 時間]</p> <p>⑤ 保護者対象の学校評価アンケートの回収率の向上を図る。 [保護者数の 80%以上、昨年度 74.5%]</p> <p>⑥ 行政系職員が積極的に教育活動に提言を行い、経営参画型経営企画室の実現を図る。</p> <p>⑦ 校内研修会及び定期的に教科会を開催し、模擬試験等の結果分析、学習の進度や定着状況について共通理解を図り、指導内容や進路指導に生かす。 [教科会月1回、校内研修3回以上]</p> <p>【学習指導】</p> <p>① 学習支援サービスを活用したオンライン学習、ソーシャルメディアを利用した動画配信及び双方向教育を実践するスキルを身に付け、自宅等における生徒の学習を支援する。 [動画配信の実践]</p> <p>② 生徒の予復習に任せる内容と授業で扱う内容について教科会で精選し、年間授業計画に基づき計画的に授業・講習等を実施する。 [当初の各教科・科目の指導内容を年度内に修了させる]</p> <p>③ 生徒一人一人の学力を的確に把握するとともに、難関国立大学、国公立大学及び難関私立大学に合格可能な学力を身に付けさせるため、放課後の補習、土曜講習及び長期休業中の講習を講習委員会・進路指導部の計画の下、計画的・組織的に実施する。 [1人3講座以上]</p>	<p>【学校運営・組織体制】【B】</p> <p>① 多くの教員が執務ガイドラインに基づき、それぞれの職層に応じて、組織的・計画的に学校運営に参画した。一方、自己申告書に一般的・抽象的な目標を記載する教員も多く、学校経営計画に基づいて、教員の力を結集することについては不十分であった。来年度は、学校経営計画の目標を整理する。</p> <p>② P D C A サイクルを実施し、学校運営連絡協議会で報告を行った。サイクルを短くする必要がある。 [前後期年2回の学校運営連絡協議会で報告]</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染防止の観点から、今年度は中学校訪問を中止した。中学校に学校評価アンケートは実施し、中学校のニーズの把握に努めた。</p> <p>④ 業務の効率化・平滑化を図り、全教職員の在校等時間及び持ち帰り業務の削減を図り、今年度2月末現在で年間平均 356 時間達成 [年間平均 R02:356 時間、H31:520 時間]</p> <p>⑤ 保護者アンケート回収率 80%以上達成 [R02:83.6%、H31:74.5%]</p> <p>⑥ 今年度、行政系職員が授業見学や給食体験を行い、学校教育について理解を深めた</p> <p>⑦ 多くの教科で月1回教科会を開催していた。臨時休業中 I C T を活用した動画配信について研修会を2回開催した。出願検討会や模試分析会、生徒の大学進学意識の向上を図る研修会を開催委した。</p> <p>【学習指導】【A】</p> <p>① ほぼ教員全員が教材配信はできるようになった。半数近くの教員が動画作成を行った。校内では約 800 本の動画が作成された。今後は、同時双方向の授業に向けてスキルの向上を図る。</p> <p>② すべての教科・科目において、とくに補習等を実施することなく、予定された範囲を修了することができた。</p> <p>③ 臨時休業のため、夏季休業等が短くなり、また、放課後の講習も実施できない期間もあり、1人平均 1.5 講座に留まった。土曜特進講座については、振休が取りにくいこともあり、消極的な教員もいる。進学指導特別推進校の使命に理解が得られないようであれば対応が必要である。</p>

- ④ 週末課題や予習・復習が必要な授業を展開し、家庭学習等、授業以外の学習習慣の定着を図る。
- 1年生 平日平均 2時間以上が40% (昨年度 32.5%)
土・日 4時間以上が20% (昨年度 7.9%)
- 2年生 平日平均 3時間以上が20% (昨年度 8.7%)
土・日 5時間以上が20% (昨年度 7.2%)
- 3年生 平日平均 5時間以上が50% (昨年度 44.9%)
土・日 6時間以上が80% (昨年度 66.5%)
- ⑤ 教員相互で授業を見せ合い、意見交換し、互いの授業力の向上を図る。 [見る・見てもらう各2回以上]
- ⑥ 全教職員が協力して自習棟及び図書館を自学・自習の場として活用させ、学習する集団づくりを推進し、授業外の学習時間を確保し、自学自習の習慣を確立させる。 [自習棟の監督年間2回程度]
- ⑦ 共通テスト5教科受験者数を増やすとともに受験科目以外の科目についても満遍なく学習に取り組み、広く一般教養を身に付けさせる。

【進路指導】

- ① 定期的な進路講演会、学年集会、二者面談・三者面談、出願検討会、授業等、あらゆる機会をとらえて、難関校に挑戦する志の高い生徒を増やす。
[各学年難関国公立志望者 10名以上]
- ② 保護者面談を実施し、進路情報を提供し、保護者の受験に対する意識を高め、家庭の進路希望・学習状況を把握し、保護者と協力して、学習指導・進路指導を行う。
[各クラス年間1回以上]
- ③ 昨年度の卒業生の進路データを活用するとともに、今年度の卒業生から進路データの提供を求める。卒業生全員から回答を集め、提供同意者を増やす。
[提供同意者 120名以上 昨年度 82名]
- ④ 進路指導部、学年による「進路だより」を発行し、生徒・保護者の啓発、情報提供を行う。[月1回以上]
- ⑤ 進路指導部・講習委員会が中心となり、土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト(各学年)、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等の実施に向け、早期の計画の策定及び生徒への周知を行い、学習する集団を形成する。
- ⑥ データ分析に基づいた学習指導や進路指導により、学年分析会、模試分析会、出願検討会等を充実させ、高みを目指す進路指導を行う。進路説明会を頻繁に開催し、進路指導を充実させ、センター試験フル受験者を増やす。
[150名以上 昨年度 128名]
- ⑦ 外部機関と連携した教員の指導向上及び生徒の学力向上に向けたきめ細やかな指導を行う。
講習・補習の [1100時間以上 昨年度 1485時間]
共通テスト総合得点率 80%以上、受験者の 15%以上

- ④ 臨時休業中に家庭学習の習慣が身に着いたためか、例年より学習する習慣が身に付いた。
- 1年生 平日平均 2時間以上 R02:31.3% H31:32.5%
土日平均 4時間以上 R02:14.2% H31: 7.9%
- 2年生 平日平均 3時間以上 R02:18.2% H31: 8.7%
土日平均 5時間以上 R02:11.5% H31: 7.2%
- 3年生 平日平均 5時間以上 R02:60.1% H31:44.9%
土日平均 6時間以上 R02:71.6% H31:66.5%
- ⑤ 教員相互の授業参観は密を避けるため、今年度は実施しなかった。次年度は実施する。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染防止の観点から授業終了後はすぐに下校しなければならず、自習棟や図書館を有効に活用できなかった。自習棟の監督は年度途中から管理職が行った。
- ⑦ 新学習指導要領に基づく教育課程においても広く教養を身に付けられるカリキュラムになるよう編成した。

【進路指導】【B】

- ① 進路指導計画に基づき、進路講演会、学年集会、二者面談等、あらゆる機会を捉えて、難関大学に挑戦するよう指導したが、上位層は指定校推薦に流れ、実際に受験した生徒は11名だった。
[1年生 18名、2年生 22名]
- ② 保護者面談を希望する保護者にしか行わず、保護者と連携した高みを目指す指導ができなかった。各クラス5名前後
- ③ 今年度の卒業生には、昨年度の卒業生の進路データを配布し、実際に活用させた結果、今年度の卒業生からデータ提供者が200名に増加した。
- ④ 進路指導部の「進路だより」は毎月発行したが、学年の進路便りは、イベント運動したもので、1年を通じた進路に関する情報提供はできなかった。
- ⑤ 進路指導部・講習委員会が中心となり、各種講習、夏の学校、春の学校、実力テスト(各学年)の実施に向け、早期の計画の策定を行ったが、新型コロナウイルス感染防止対策のため、十分な時間を取ることができなかった。
- ⑥ 模試分析会、出願検討会には、当該学年の学級担任、進路指導部及び教科担任の一部しか出席せず、下の学年への継続性がない。また、卒業後、3学年と2学年の引継ぎがないため、前の学年の反省点が生かされない。共通テストフル受験者は108名であった。
[R02:108名 H31:128名]
- ⑦ 夏季休業が6週間から2週間に短縮されたため、補習・講習は877時間にとどまった。
共通テスト総合得点率 80%以上は、受験者の 6%にすぎなかった。

(H31:12% H30:13% H29:9%)

現役大学合格者

国公立大 50名 (H31:45名 H30:44名 H29:55名)

難関私大 50名 (H31:38名 H30:42名 H29:50名)

【生活指導】

- ① 時間を大切にし、時間を守る生徒を育成するため、チャイム始業・チャイム終業を徹底する。
- ② 人権意識を高め、SNS等に根拠のない情報を投稿したり、ネット上で誹謗中傷を行わないよう指導する。
- ③ 出勤時・授業中等あらゆる機会を捉え、交通ルールを守らせ、とくに小学生の模範となるよう指導する。
- ④ 教職員自ら挨拶の励行に努め、明るく活気のある学校づくりに取り組む。

【特別活動】

- ① 学習活動と特別活動(部活動・学校行事等)の両立ができるように生徒の自律心を養うとともに、適切な指導・助言の下、生徒の主体性を育成する。
- ② 生徒の主体的活動を支援し、HR・部活動・委員会活動・学校行事の活性化を図り、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを経験させ、生徒に成就感・達成感を享受させる。
- ③ HR・部活動・委員会活動・学校行事の取組において、話し合い活動を重視し、コミュニケーション能力の育成や自己理解・他者理解を深めさせ、望ましい人間関係の在り方を学ばせる指導を展開する。
- ④ オリンピック・パラリンピックの精神の涵養を図るため、各教科における学習、研究発表及び講演会等によるオリンピック・パラリンピック教育を通して、生涯にわたりスポーツに親しみ、持続可能な社会への理解と豊かな国際感覚を醸成する。
- ⑤ 主体的に部活動や学校行事に取り組みせ、充実した高校生活を過ごさせることにより、自信と愛校心を高める。

【部活動】

- ① 部活動では、高い目標を設定し、困難な場面を乗り越える力の育成に努め、達成感を体験させることで、生徒の自信や自尊感情を高める。

〔都大会本戦出場3部以上〕

- ② 効率的な学習指導を行うとともに「切り替えと集中」について指導し、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる。学業と部活動・学校行事の両立に向けた努力を継続させるための支援を全教員で行い、心身ともにたくましい人間を育成する。

〔部活加入率90%以上〕

【募集・広報活動】

- ① 広報誌の発行回数・部数を増やし、配布先も広げる。中学校訪問・塾訪問の際の訪問マニュアルを作成し、

(R02:6% H31:12% H30:13% H29:9%)

現役大学合格者

国公立大(R02:58名 H31:45名 H30:44名 H29:55名)

難関私大(R02:26名 H31:38名 H30:42名 H29:50名)

【生活指導】【A】

- ① 時差登校の影響で授業が40分に短縮されているため、チャイム始業・チャイム終業は徹底している。
- ② 今年度は、SNS関係の課題は発生しなかった。
- ③ 毎朝、生活指導場が校門に立ち、検温とともに遅刻指導等を行った。
- ④ 毎朝、校門で挨拶を行っているため、校内でも挨拶をする生徒が格段に増え、校内の雰囲気明るくなった。

【特別活動】【B】

- ① 今年度は部活動・学校行事が大きく制限を受けた。できることに目を向け、オンライン文化祭など、適切な指導・助言の下、生徒の主体性を育成した。
- ② オンライン文化祭や球技大会、修学旅行委員によるレクリエーション等、できる限り、生徒の主体性を発揮する機会を提供した。仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを経験させ、わずかではあるが、成就感・達成感を享受させることができた。
- ③ 例年よりは少なくなったが、コミュニケーション能力の育成や自己理解・他者理解を深めさせ、望ましい人間関係の在り方を学ばせることができた。
- ④ 各教科における学習等を通して、オリンピック・パラリンピックの精神の涵養を図った。延期になったオリンピックをコロナ下での開催することになり、国際情勢を学ぶ良い機会となった。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止という制限がある中、主体的に部活動や学校行事に取り組みせ、自信と愛校心を高めた。

【部活動】【B】

- ① 活動自体が制限を受け、3年の引退や2年生と3年生の間での引継ぎを行うことができなかった。多くの大会が中止となり、3部以上の都大会出場は果たせなかった。
- ② 「切り替えと集中」をつねに意識させ、新型コロナウイルス感染防止により、一層限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせた。部活動や学校行事も時間が限られているので、両立は困難ではなかった。

〔部活加入率90%〕

【生徒募集・広報活動】【A】

- ① 今年度は、地域の町内会にも広報誌を配布した。新型コロナウイルス感染防止のため、中学校訪問・

<p>中学校や地域に対する募集・広報活動の改善を図り、入試倍率の向上に努める。 〔推薦に基づく選抜 2.0 倍以上、学力検査に基づく選抜 1.4 倍以上〕</p> <p>② 学校説明会、学校見学会等の充実を図り、中学校訪問、塾訪問、各種説明会等に積極的に参加する。 〔外部の説明会、中学校訪問・塾訪問等、年間 3 回以上〕 〔学校説明会参加人数 1300 名 昨年度 1169 名〕</p> <p>③ 小学生対象、塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。〔50 名 昨年度 26 名〕</p> <p>④ 中学生部活動体験・高校授業体験、出前授業を積極的に推進し、本校の教育活動を周知に努める。 〔年間 1 人 1 回以上〕</p> <p>⑤ HR 通信・学年通信の発行や地域・保護者による授業参観を通して積極的に本校の教育活動を発信する。また、部活動、学校行事及び本校の特色を紹介する広報誌を年間に 4 回程度中学校・地域に配布する。</p> <p>⑥ iPad 及び HP を活用して、本校の教育内容を本校生徒の保護者、中学生・中学生の保護者に発信する。 〔HP180 回以上 昨年度 170 回〕</p> <p>⑦ 全員で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加を図る。 〔4000 名 昨年度 3681 名〕</p> <p>【安全・健康塩津・美化指導】</p> <p>① 「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行う。 〔年間 1 回以上〕</p> <p>② 避難訓練、宿泊防災訓練、救命講習などの体験的な訓練及び防災ブック「東京防災」、防災ノート、防災講演会などを通して、自助・共助の精神を醸成し、地域社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。</p> <p>③ 公共の精神を高め、日々の清掃や整理整頓に真剣に取り組む生徒の育成を図る。日々の清掃活動及び年 3 回以上の大掃除を軸として校内美化に取り組む。 〔学校見学会等の前日の清掃活動の徹底〕</p> <p>④ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、校内美化に努める。</p> <p>⑤ 環境教育及び持続可能な社会の発展に向けた教育を通して、ゴミの分別・削減、節電を推進する。</p> <p>⑥ 総合的な子供の基礎体力向上方策を活用して、早期から基礎体力向上に取り組み、生涯にわたりスポーツに親しむ心と体を育てる。 〔生徒体力・運動能力において 5 種目で都平均以上〕</p> <p>⑦ 命を大切にする教育を推進するため、企画調整会議、生活指導部、教育相談委員会、スクールカウンセラーが、連携を密にした組織的な指導を行う。</p> <p>⑧ 地域や関係機関と連携した防災訓練や救命訓練などを通して、自助・共助の精神を醸成する。</p>	<p>塾訪問は中止した。 〔推薦に基づく選抜 2.59 倍、学力検査に基づく選抜 1.34 倍〕</p> <p>② 学校説明会、学校見学会等の充実を図った。オンラインの説明会も実施した。 〔外部の説明会 2 回、中学校訪問・塾訪問は中止、〕 〔学校説明会参加人数 917 名（他オンライン参加者 509 名）昨年度 1169 名〕</p> <p>③ 小学生対象、塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。〔66 名 昨年度 26 名〕</p> <p>④ 中学生部活動体験・高校授業体験、出前授業については、新型コロナウイルス感染防止の観点から今年度は実施しなかった。〔年間 1 人 0 回〕</p> <p>⑤ HR 通信・学年通信の発行は行ったが、授業参観は保護者のみ廊下からという条件の下に実施した。広報誌を年間に 1 回のみ中学校・地域に配布した。</p> <p>⑥ iPad 及び HP を活用して、本校の教育内容を本校生徒の保護者に発信した。 〔HP:223 回 昨年度 170 回〕</p> <p>⑦ 全員で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加を図る。 〔アクセス回数 16000 回以上 昨年度 3681 名〕</p> <p>【安全・健康塩津・美化指導】【A】</p> <p>① 「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行う。 〔1 学年で実施〕</p> <p>② 避難訓練、上級救命講習を実施するとともに、防災ブック「東京防災」などを通して、自助の精神を醸成した。来年度は、地域住民と連携して、避難所開設訓練等を行い、共助の精神と域社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。</p> <p>③ 日々の清掃や整理整頓を徹底させた。大掃除を軸として校内美化に取り組む。 〔学校見学会等の前日の清掃活動の徹底〕</p> <p>④ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、校内美化に努めた。</p> <p>⑤ 持続可能な社会の発展に向け、ゴミの分別・削減、節電を推進した。</p> <p>⑥ 体育の授業を通じて、基礎体力の向上に取り組み、生涯にわたりスポーツに親しむ心と体を育てた。生徒体力・運動能力等調査において、全学年の男女とも 5 種目で都平均以上を記録した。とくに、2 学年男子は、8 種目すべてで都のお平均を上回った。</p> <p>⑦ 企画調整会議、生活指導部、教育相談委員会、スクールカウンセラーが連携し、生命尊重の教育を実施した。</p> <p>⑧ 消防署と連携した防災訓練や救命訓練などを通</p>
---	--

【国際理解教育】

- ① 国際理解教育として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留学派遣、外国の学校との交流を推進する。
- ② オリンピック・パラリンピック教育を推進し、授業、特別活動及び部活動において、体力・技術力の向上を図るとともに国際理解教育の充実を図る。
- ③ 実用英語技能検定準2級相当の英語力を身に付けさせる。 [全校生徒の60%以上]
- ④ 茶生花部、和太鼓部及び剣道部の生徒を始めとして、生徒に日本の伝統・文化の良さを理解させるとともに他国の伝統・文化を尊重する態度を身に付けさせ、各種交流活動や海外語学研修等において互いの文化について交流ができる生徒を育成する。
- ⑤ 海外修学旅行の実施に向け、準備委員会発足し、生徒の国際理解意識の向上を図る。

【施設設備管理・経営企画室運営】

- ① 施設設備の安全確保のための校内見回りを関係者が分担して実施する。 [毎日実施]
- ② 校長に対して自律経営推進予算の執行状況を定期的に報告する。 [月1回]
- ③ 予算は、第三四半期までに概ね執行する。 [執行率80%以上]

【特別支援教育】

- ① 発達障害のある生徒に対する支援方法について校内研修を実施する。 [年間1回程度]
- ② 発達障害により特別な支援が必要な生徒について、SC、外部機関、保護者との連携を図り、ケース会議等の開催を通して支援を実施する。
[ケース会議に向けた個別指導資料の作成]、各種説明会等へ積極的に参加する。

して、自助・共助の精神を醸成した。

【国際理解教育】【A】

- ① 海外語学研修、留学生の受入、次世代リーダー育成道場については、すべて中止になった。春休みに希望者を対象にオンライン国際交流を行った。
- ② 授業等を通して、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、体力・技術力の向上を図るとともに国際理解教育の充実を図った。
- ③ 4技能を習得させ、実用英語技能検定準2級相当の英語力を身に付けさせた。 [全校生徒の71%]
- ④ 茶生花部、和太鼓部及び剣道部の生徒を始めとして、生徒に日本の伝統・文化の良さを理解させるとともに他国の伝統・文化を尊重する態度を身に付けさせ、互いの文化について交流ができる生徒を育成した。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策のため、海外修学旅行の実実施計画は当面見送ることとした

【施設設備管理・経営企画室運営】【B】

- ① 施設設備の安全確保のための校内見回りを関係者が分担して実施し、施設管理に努めた。 [毎日実施]
- ② 校長に対して自律経営推進予算の執行状況を概ね月1回報告した。
- ③ 修学旅行が中止になるなど、予算が第三四半期でも余ってしまった。 [執行率64.2%]

【特別支援教育】【B】

- ① 発達障害のある生徒に対する支援方法について校内研修を実施できなかった。 [年間0回]
- ② 発達障害により特別な支援が必要な生徒について、SC、外部機関、保護者との連携を図り、ケース会議等の開催を通して支援及び合理的配慮を行った。 [個別指導資料を作成するケースはなかった]、各種説明会は中止になった。